

そろばんの産地と作者

鈴木 久 男

目次

- | | |
|----------|---------|
| 一 まえがき | 五 京 都 |
| 二 雲 州 | 六 長崎・博多 |
| 三 芸州(広島) | 七 大 阪 |
| 四 大 津 | 八 その 他 |

一 まえがき

曾つて私は「古そろばん考」と題して、本誌一三号(一九七〇年)に現存する古そろばんの所在とその内容、作者などを記したことがある。さらに『経理研究』に「古そろばんの産地考」(一九八四年三月)を記して、古そろばんの産地別特徴、見分けかたなどを記しておいた。別に『古そろばんの研究』と題する著書(一九七三年、A五版三八

そろばんの産地と作者(鈴木)

四頁）がある。刊行後一〇年、その間に新しく発見された作者も多く出た。いまここに収録し、併せて著名作家の経歴も留めておきたい。

江戸時代から明治、大正にかけて、そろばん製作者のうち、名工と呼ばれる職人が多く出た。

彼らの作品は気品があつて、数十年はおろか百年以上を経過した今日でも、珠の動きが軽快で、一寸一分の狂いもない。

以下に、どの地方に、どんな名工が輩出したかを列記するとともに、著名な代表者の系譜を明らかにしてみたい。最初に、そのそろばんに書かれたり、彫りこまれたり、貼紙されていたものすべての名を再現し、つぎに代表者の系図を示しておく。

二 雲 州

ア、初代 村上吉五郎

（所蔵者の敬称は略し、銘の下に記す、年代の記入のあるものはカッコ書きしておく）^①

1 雲州亀嵩住 岩根屋祐三郎方常作 若槻（天保七）糸賀（天保九）

2 雲州住 岩根屋祐三郎方常作 井手

- 3 雲州住 岩根屋吉五郎方常作 若槻(文久二)
- 4 雲陽住 方常行歳七十六歳作 浅野(文久二)
- 5 亀嵩住 村上吉五郎方常行歳七十八翁造之 岩佐(元治元)
- 6 雲陽住 方常行歳八十一翁作 トモエ(慶応三)
- 7 雲陽根元 方常八十四翁作之 勝田(明治三)
- 8 雲州根元 方常作 トモエ横田(天保一二) 井手(明治四) 山根(明治五)
- 9 雲陽根元 村上方常作 山本(明治六) 齐藤(明治八)
- 10 雲州根元 村上方常作 服部(明治八)
- 11 雲州住 村上方常作 東城高校(天保一三) 井手(安政三以前)
- 12 雲陽住 方常作 トモエ(天保一五)
- 13 雲州住 方常作 石原(嘉永二) 安原(嘉永七) 村上(同年) 高津(安政六) 木村(慶応元) 尾崎(明治九)
- 14 雲州 方常作 岩佐(嘉永二) トモエ(嘉永四)
- 15 方常作 松浦(嘉永七)
- 16 方常 舟木(慶応元) 佐世(慶応四)
- 17 岩祐 村上(天保)
- 18 方常行歳八十四翁作 勝田(明治三)

そろばんの産地と作者（鈴木）

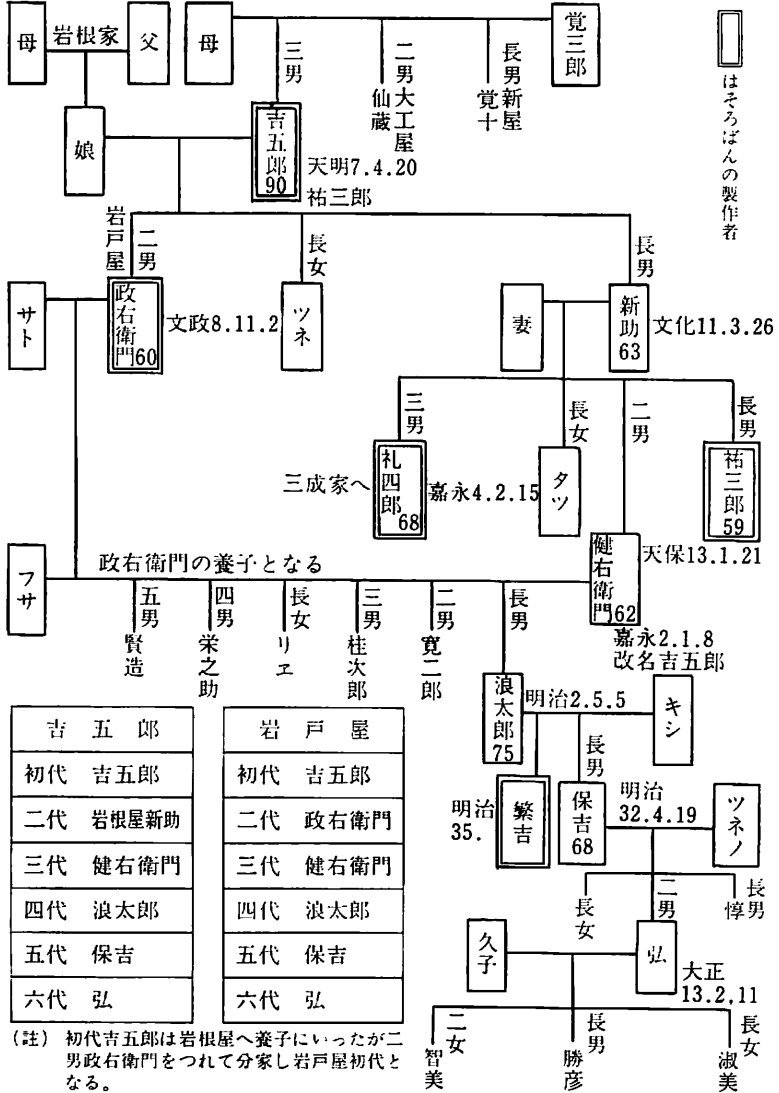
19 方常八十九翁 板持（明治八）

イ、二代目以降の方常

- 1 雲州根元 村上方常作 福田（明治一〇）
 - 2 雲州根元 村上礼四郎方常作 官鑑第一等新工奇製算盤 石原（明治一二）（三男）
 - 3 雲州根元 村上祐三郎方常作 石原（明治一二）（長男）
 - 4 雲州根元本 村上祐三郎方常作 官鑑第一等の焼印 山田悦
 - 5 雲州 礼四郎方常作 岸（明治一二）
 - 6 雲州 方常作 伊藤（明治一〇）井手（明治一二）牛尾（明治一三）
 - 7 雲州住 方常作 山崎（明治一〇）石原、山口（明治一二）
 - 8 村上祐三郎 船原（明治二三）
 - 9 雲州根元 三代方常作 船原（明治二三）
- 焼印のもの
- 1 雲州根元 村上祐三郎方常作 官鑑第一等新工奇製算盤 若槻（明治二三）
 - 2 島根官下亀嵩住方常作 佐藤（明治一二）
 - 3 根本出雲国 方常作 鈴木俊

村上吉五郎の家系図、家系、職人系図は別紙のとおり。

・村上吉五郎の家系図

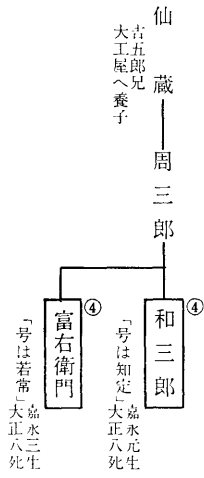
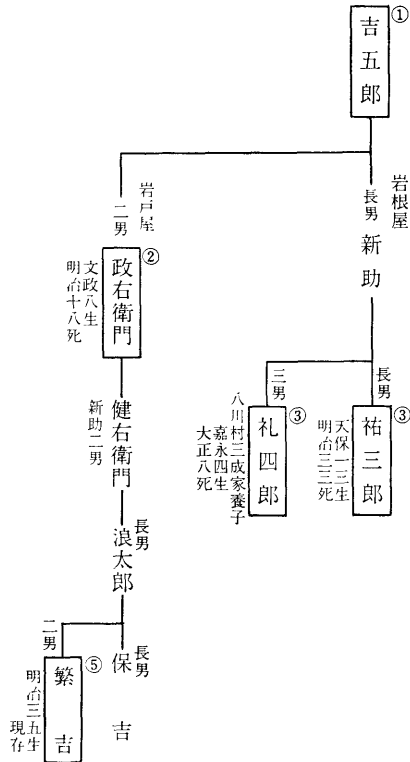


* 村上吉五郎方常家系

初代	村上吉五郎	天明7. 4. 20生	明治 9. 12. 10亡 (90才)	花算元香居士	長男	新助
	妻		弘化 2. 2. 26亡	花貞香信信女	長女	ツネ
	(木次町山方)				二男	政右衛門
二代	村上政右衛門	文政8. 11. 2生	明治18. 9. 15亡 (60才)	賢法達道居士		
	妻	サト	明治41. 11. 21亡	歟室妙算大姉		
三代	村上健右衛門	嘉永 2. 1. 8生	明治43. 5. 6亡 (60才)	実翁道賢居士	(初代吉五郎 長男 新助の次男)	
	(養子)		(73才)		長男	浪太郎
代	妻	フサ			長女	リエ
					二男	寛二郎
					三男	桂次郎
					四男	栄之助
					五男	賢造
四代	村上浪太郎	明治 2. 5. 5生	昭和18. 5. 8亡 (75才)	瑞光軒法雲浄 性居士	長男	保吉
	妻	キン	昭和41. 5. 30亡 (87才)		次男	繁吉
五代	村上 保吉	明治32. 4. 19生	昭和41. 8. 23亡 (68才)	大心軒宗乗確 保居士	長男	惇
	妻	ツネノ	明治36. 3. 28生		二男	弘
代	(横田町松岡家)				長女	
六代	村上 弘	大正13. 2. 11生			(五代目の次男)	
	妻	久子	昭和 2. 5. 17生		長女	淑美
					長男	勝彦
					二女	智美

そろばんの産地と作者(鈴木)

□ はそろばん職人 ○ は相伝の順



そろばんの産地と作者 (鈴木)

そろばんの産地と作者（鈴 木）

ウ、雲州の名工たち（年号記入のあるもの）

- 1 工者 平左衛門造之 長福寺（安政六）
- 2 雲州住 直常作・富士短大（慶応元）服部（元治元）松浦（明治九）
- 3 雲州住 本常作 糸原（慶応三）
- 4 雲州住 久常作 トモエ横田（明治七）
- 5 雲州 久常作 板持（年号なし）
- 6 雲州住 元常作 トモエ（明治一〇）
- 7 雲州住根本 古常作 山本（明治一一）
- 8 雲州仁多郡横田住 安部正常作 石原（明治一七）
- 9 雲州住 朝常作 服部（明治一九）
- 10 雲陽本原方 真常作 勝田（明治二二）
- 11 皇国第一等 則常作 山本（明治三二）
- 12 雲州一等 東村上若常作 加賀（明治三二）
富右衛門若常作 若槻（年号なし）
- 13 雲州 長元作 内藤（明治三）
- 14 雲州 伝太郎作 若槻（明治四）
- 15 出雲 金久 安達（明治九）

- 16 雲州 小田原常作 勝田（明治一〇）
- 17 雲州住 森山茂作 山本（明治一二）
- 18 雲州 森山茂作 安達（明治一一）
- 19 雲州根元 常作 鈴木俊（明治一一）
- 20 雲州住 小豊作 石原（明治一二）
- 21 雲州亀嵩住 知定作（焼印） 皇国第一等村上知定製 石原（明治二四）
- 22 藤原文治郎 トモエ横田（明治四一）

エ、雲州の名工たち（年代記入なし）

- 1 雲州住 森茂作 秋元
- 2 皇国雲州 元小山重春作 鈴木久
- 3 島根県出雲国第一等 石原
- 4 島根県官下出雲国第一等 石原
- 5 官許皇国第一等 雲州村上常作 鈴木俊
- 6 官許皇国第一等 雲州製算盤 山路
- 7 皇国第一等官許 算盤司 鈴木俊
- 8 雲州根元官許第一等 常陳製

そろばんの産地と作者（鈴木）

そろばんの産地と作者（鈴木）

一一三

- 9 雲州根元 小田原い作 鈴木俊
10 雲州 村上常 板持
11 雲州仁多郡 三宅亮平 鈴木俊
12 高橋常作 吉村
13 田村六作 竹内（上下二面）
14 雲州初代 吉川信義之作 酒井
15 皇国雲州元 小山重春作 鈴木久
16 雲陽島上 藤文製 大矢甫
17 雲州住 静用軒作 大矢甫
18 村上勇三郎 新見

三 芸州（広島）

(1) 文献に表われた作者

内藤与右衛門 可部町史（広島市編）三六〇ページ、第四章第三節 郡中国郡誌 重立候産業に、綾ヶ谷算盤おもちとあり、郡中国郡誌 文政二年（一八一九）編には、

往古当村大工 内藤与右衛門工夫仕算盤相調候由今二世上(三)ニ綾ヶ谷算盤ト賞美仕候 同人一代(三)ニ而子細申候(三)

と記されているという。孫六、惣兵衛もあるという。^②

(2) 現存する芸州そろばんの作者銘

ア、小八の関係

例の塩屋小八のそろばんである。

1 芸州廣島作者鹽屋小八 山路（文化六） 親子珠三一桁

2 広島 塩屋小八舊二作 清水

3 塩屋小八作 トモエ本社

4 芸州住塩屋小八作 安政七庚申岩祐直ス 糸原

塩屋が屋号か、地名か、商売名か、苗字かが明らかでないが、塩屋町（現紙屋町）という地名がある。

イ、加計の関係（河野姓と多助）

1 芸州山原郡太田庄瀧本 河野龍祐作 山崎（天保一一）安達（天保一四）

2 芸州山原 太田 瀧本 河野龍助作 三上

3 山原郡加計村 河野龍助作 藤野（慶応元）

4 加計邑 河野龍助作 安達美術館

5 加計村 河野龍助作 井手

6 加計邑 河野龍補性 河野

そろばんの産地と作者（鈴木）

そろばんの産地と作者（鈴木）

一二四

- 7 加計村 河野龍助通安作 河野哲文
- 8 加計村 河野龍祐作 山路（嘉永元）
- 9 加計村ノ住 河野龍助作 杉中（文久三）
- 10 瀧本河野龍助作 木原（弘化二）
- 11 瀧本河氏柳助作 山口（天明八）
- 12 瀧本河野龍祐作 吉池
- 13 河野龍祐作 加計
- 14 龍祐作
- 1 芸州山県 多助作^③ 藤野
- 2 ウ、長兵衛関係 瀧本多助作 横山、湊、片岡、佐々木、村上、内藤、妙智寺、佐野、安達
- 可部 近江長兵衛作 沢井（文久四）^④
- 可部 長谷川長兵衛作（明治一〇）^⑤ 山本
- 香川三之は近江長兵衛と長谷川長兵衛とは同一人物であろう。としている。
- エ、その他
- 地名の入った芸州そろばんは上記のほかに、

1 広島 十日市町東側 梅用堂 中村勇助作 井手

2 広島 己斐村竹谷作 泉（明治一〇）

3 大工 壬生町伝八作（天明元）

の三丁が存在し、その他

1 広島 土屋梅林堂撰製 タカツ

2 広島 梅林堂土屋作 山口正

3 広島 梅林堂作 安達、尾崎、酒井

4 土屋猪平太 タカツ

5 広島 梅玉堂作 牛尾（文久四）

6 広島 紅梅堂 浅井、酒井

7 広島 梅明堂作 太田敏幸

8 広島 玉算堂作 鈴木久

9 梅光堂 島田

10 広島県 足利作 鈴木久

11 広島 大谷作 酒井（親子珠）

12 広島 久米平六 鈴木俊

13 広島 宝〇作 安達

そろばんの産地と作者（鈴木）

そろばんの産地と作者（鈴木）

一一六

14 広島算盤製作所

がある。梅の字の多いのは梅珠が使われていたからであろう。

芸州そろばんの作者銘もまた多色であった。

長谷川長兵衛と近江長兵衛は同一人物らしいこと。

土屋と、猪平太と梅林堂も一族か同一人らしい。

一番ややこしいのが龍祐、龍助、龍補、柳助であろう、発音はいずれもリユウスケ、初代、二代、三代の関係か、或いは同一人物かがよくわからない。

香川三之の研究によると、芸州そろばんの作者は、

広島、可部、加計、壬生、坂、廿日市から発見されており、

植田屋林助、小野寛兵衛、若林、小倉一造

という作者銘もあるという。氏は可部、壬生、加計（瀧本）について述べており、

高宮郡可部

山県郡壬生

山県郡瀧本（現在は山県郡加計町大字加計字瀧本）の作者を詳しく調べている。

まず瀧本の多助については、

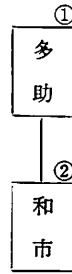
山県郡下筒賀村宗旨御改帖（檀那寺は大朝町の西教寺）の記録から

文政元年（一八一八）に、

多助、女房、娘のゆき、子の常松（和市）

とあるのを引用し、多助の推定年齢を三十歳以後としている。^⑦

多助は天保三年（一八三二）から八年（一八三三）ごろに死亡し、その間に娘のへ、佐藏、権次の計五人が生れており、和市が二代目の作者と推定されている。



多助の作品には年号の記入がない。が、内藤淳作氏蔵の箱書に、
安政六己未水無月求之。

とあるから一八五九年に当り、当然二代目の作品と考えてよからう。

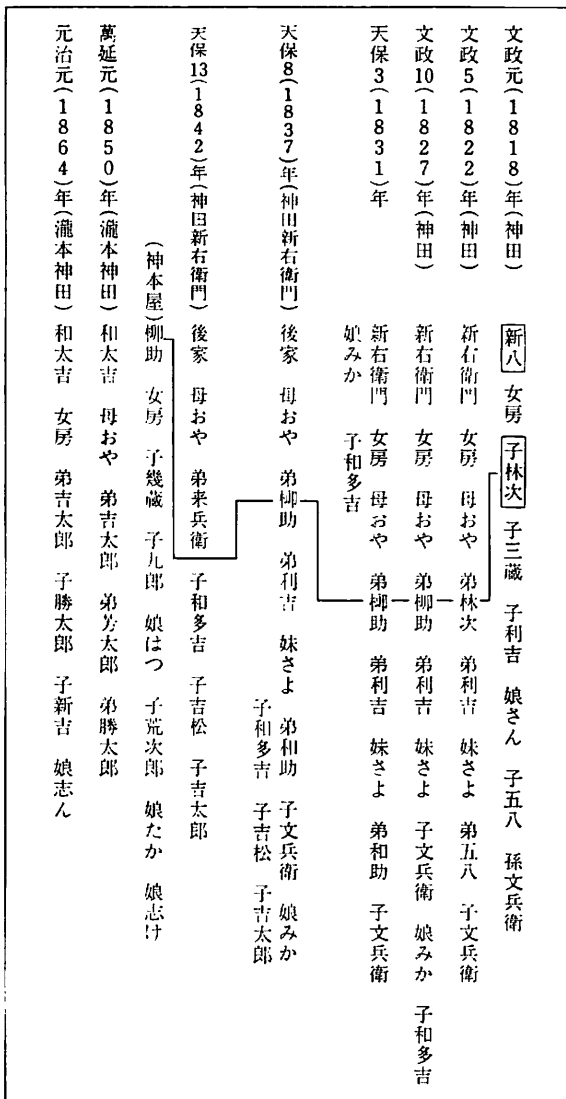
河野柳助、龍祐などについて考えてみよう。

香川氏の論文によると、

瀧本河野柳助作とある天明八年（一七八八）九月十四日の墨書のある山口辻氏蔵については切離して考えておられるが、その必要はなからう。後で述べるように初代と考えられるからである。^⑧

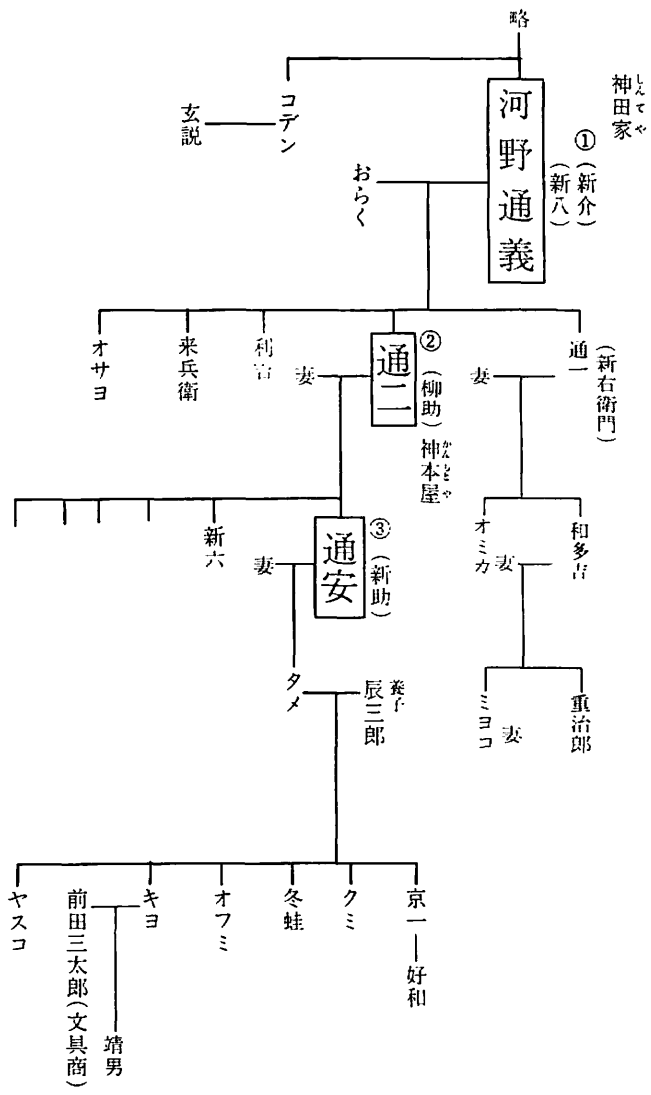
下筒賀村宗旨御改帖の一部をつぎの如く要約されている。

下筒買村宗旨御改帖の一部



天保一一年(一八四〇)から、嘉永二年(一八四九)までの現存作品を、河野家系譜、戸籍謄本、墓標(加計、瀧本)と照合すると、つぎのように考えらよう。

そろばんの産地と作者（鈴木）



そろばんの産地と作者（鈴木）

系譜と宗旨改帖の相違はつぎのように考えたらよい。

屋号	作品銘	作者系譜	系譜	墓標	俗名	宗旨改帖	死亡
神田屋 <small>カミタヤ</small>	柳助	初代新介	河野通義	積浄蓮	新助	新八	文政元年 七月十六日 (一八一八)
神本屋 <small>カミモトヤ</small> に分家(天保十三?)	龍祐	二代柳助	二男通二	積西岸	河野龍祐	林次 (改名は天保十三?)	慶応三年 五月二十三日 (一八六七)
神本屋	龍助	三代新代助	長男通安	見当らず		幾蔵	明治二十九年 十一月二十六日 (一八九六)

四 大津（貼紙）

ア、庄兵衛

- 1 大津追分町一里塚前庄兵衛 服部（文政三）トモエ、山本、尾崎、伊能忠敬記念館、鈴木久、山路、鈴木俊など。
- 2 大津追分 一里塚 庄兵衛 服部、山口、小島、トモエ、鈴木俊、鈴木久、酒井など。
- 3 大津追分 一里塚前庄兵衛 服部（ただしこの作品は播州製）
- 4 大津 一里塚前庄兵衛 鈴木俊（文化八）
- 5 大津追分町前一里塚庄兵衛 早川（文久三）

イ、安兵衛

- 1 大津追分 木屋安兵衛 大矢、酒井（物差付）
- 2 大津 木屋安兵衛 鈴木俊、片桐、小島、佐々木、斉藤、尾田。文箱（物差付）のものもある。
- 3 木屋安兵衛 鈴木俊

ウ、その他

- 1 大津追分一里塚前 御算盤師 美濃屋理兵衛、小島（宝永二）

そろばんの産地と作者（鈴木）

2 東海道大津八丁 算盤師 小島庄兵衛、酒井

3 大津 原田庄兵衛、鈴木俊

4 大津 上田屋長兵衛、鈴木俊

5 大津一里塚 利兵衛、酒井

6 大津追分 小谷平兵衛、酒井^⑨

7 大津一里塚 庄治郎、鈴木久、山口

8 大津 片岡庄治郎、鈴木俊、酒井

9 滋賀県滋賀郡大津町字追分 片岡庄次郎、山本（明治一〇）

10 大津一里塚前 御算盤所昆布屋定治郎、尾崎、酒井

11 大津 昆布屋定治郎、鈴木俊

12 大津一里塚 堀池定治郎、服部（万延元）尾崎

13 可隣 近江吉長作、伊藤

15 大津 追分 勘助（中西調）

15 大津 追分 万勘助 山路（文箱）

16 大津 京町 木屋和助 山口

17 大津 片岡〇〇良 安達

18 木戸作 池田つね子（寛政一二再拵）

五 京 都

ア、小谷平兵衛

- 1 京三条寺町 東入北側中程 小谷平兵衛 服部
- 2 京三条寺町 東入南側中程 小谷平兵衛 トモエ、山口、尾崎、相川
- 3 京三条寺町 東 小谷平兵衛 尾崎
- 4 京都市三条寺町東入 小谷平兵衛 鈴木俊
- 5 京都市三条寺町東入ル北側 小谷平兵衛 小林誠男
- 6 京三条けあげ出店三条寺町東入小谷平兵衛 山口訖、尾崎
- 7 京三条蹴上 小谷平兵衛出店 鈴木久
- 8 大津海道三条蹴上 小谷平兵衛 大矢甫
- 9 京三条寺町 小谷平兵衛 鈴木俊

イ、其の他

- 1 京都 片岡正七郎 内藤
- 2 京三条通 御幸町角（御用算盤所）片岡庄四郎 鈴木久

そろばんの産地と作者（鈴木）

そろばんの産地と作者（鈴木）

一三四

- 3 西京寺町通 高辻上ル町 浅井安兵衛 杉本（明治二〇）
- 4 京都高倉通四条下ル町 算盤司 伊藤 酒井
- 5 京本家 伊藤伊右衛門 義陳（焼印） 鈴木俊
- 6 京本家 酒井

六 長崎・博多

- 1 肥前 大村原口村 相川完市政重作 山口
 - 2 崎陽工匠 山本嘉左衛門恒成作 大矢
 - 1 博多北船町 青柳平三郎作 古賀（明治一〇、一八）井手（明治一四）
 - 2 筑前博多土居住 石村正栄作 古賀、井出
 - 3 博多土居町 石村利右衛門作 古賀（文久二）
- 利右衛門と正栄が親子関係なのかどうか未だ確かめられていない。

七 大 阪

播州そろばんに銘の記入はない。古くから作られているのに、箱書も貼紙も彫りもなく、箱とそろばんのそれぞれに引合いのための番号が漢数字で書かれているのみである。播州の製品でも良い作品がある。しかし、前に記したように大阪の貼紙がつけられて販売されていることは、江戸時代の播州製品が他の地方に比して遜色のあることを示しているといえよう。以下の作品銘はほとんど明治以降のものと考えてよい。

1 大阪阿みだ池西門 清水又兵衛 鈴木俊

2 雲州算盤製造元 大阪今橋二丁目 大口作 酒井、鈴木久

3 算盤細工所 沢本利兵衛 大阪市今屋町筋 酒井（文箱）

4 算盤細工所 沢本利兵衛 大阪松屋筋久宝寺橋南入

5 泉州 估忠作（これも大津）

なお「商工案内 浪華の魁」明治一五年一月中外書房に、

算盤製造所 東天満白屋町三十六番地 上田辰造の記載がある。^⑩

そろばんの産地と作者（鈴木）

一三六

八 その他

上記以外に名古屋、東京、飛騨、北越の作品がある。

名古屋 鈴木豊太郎作

愛知元祖 森岡屋 御算盤調進所 山本権次郎製品証 名古屋京末広町二丁目 電話五十四番のシール貼

鈴木俊（明治二四）、早川、大野、大矢甫

東京 中橋小源堂作 鈴木久（明治代）

飛騨 尾崎

北越 長陵ノ住 寺本竹斎作 鈴木俊

以上である。ここに記した大部分は実見したのだが、まだ出てくる可能性がある。「古そろばんの産地考」とこの抜刷を持って、古道具店、愛蔵者を廻りたい。

注

- ① 高橋一郎「雲州そろばんの今昔」一九七八年六月再版 松江文庫（株式会社報光社内）も参考にしてある。
- ② 香川三之「芸州十露盤について」一九八二年八月「珠算史研究」第四号および一九八三年六月、同六号による。
- ③ 上記論文による。
- ④ 上記論文による。

文久四子正月調之 可部 近江長兵衛作
とあるという。

⑤ 上記論文による。

長谷川長兵衛は文政九年（一八二六）十一月十五日生、明治三十七年（一九〇四）五月歿。銘は
明治十年丑三月調之
関城保太良什物

可部 長谷川長兵衛作とあると。

長兵衛の作品は、現在

広島市安佐北区 山本氏

愛媛県松山市 白石氏（親子珠）

の二丁が所蔵されているという。

⑥ 上記論文による。

箱入そろばんの箱の底の方に、

天明元年 大工壬生町

算盤箱 土師村住田屋

丑極月吉日 伝八作とあり、箱の蓋には高田郡土師村 住田屋 明治十年八月十三日ヨリ名前切替 石井久吉

とあったそうである。住田屋は所有者。石井久吉という苗字がついて姓名となったものであろう。

⑦ 上記論文による。

⑧ 上記論文六号二五ページ

⑨ 京三条 小谷平兵衛は後述のとおりたくさんあるのだが、これは大津なのである。

⑩ 宮本又次著「大阪商人、その土性骨のうつつりかわり」昭和四三年五月、中外書房発行の中にこれが復刻されている。
この書の中には卸商として

東区博労町界筋角 和田治兵衛

そろばんの産地と作者（鈴木）

そろばんの産地と作者（鈴木）

一三八

堺筋南本町北江入 滝田清右衛門（津山屋事）

堺筋南久宝寺町角 近藤楢吉

唐物町通堺筋西江入利見又吉郎

の四店中、滝田、近藤、利見三店は店先図が示されている。これは

「大阪買物独案内」文政三年（一八二〇）に

北久太郎町堺筋西へ入 葛籠屋治郎兵衛

心斎橋塩町角

河内屋清五郎

北久太郎町堺筋東へ入

中嶋屋庄兵衛

唐物町心斎橋東へ入

播磨屋平兵衛

が算盤仕入所、算盤所として「おろし、こうり」店であったことを示しているが、その明治版と見てよからう。